
うらはらの星

タケ3

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

うらはらの星

【NZコード】

N3152M

【作者名】

タケ3

【あらすじ】

スターにはなるべくしてなる。

サッカー大好きな高校生。地元ではカリスマとして、知らない人はいないくらいの知名度を誇る選手。しかし、その実態は・・・

ゆでたばい（前書き）

サッカー好きな人も、そうでない人も、
一回呼んでみてください。
明るくなれるお話になつております。
自信作です！

ゆでたばい

僕は17になつたばかりの高校2年生です。
この歳になつて思う事があります・・・。

スターはなるべくしてスターになる。

自分で言つのはおかしいかも知れないが、僕はそんな人間の一人です。

僕はただサッカーが好きで、小学生の時から少年サッカーに通つていました。

親は二人ともサッカーのルールすら知らないが、試合の度に応援団を引き連れて見に来っていました。
何故か・・・

僕は正直そこまで上手くない。

足もそんなに速くない。

足技なんて、全然できましえん。

ただ、何故かいつも活躍するんです。

そう、何故か。

自分でも分からないんです。気がつくと足元にボールがあるので、

蹴る しかし狙いとは逆に飛んでいく キーパーの裏をつく 決まる

センタリングに飛び込む 頭には当たらずヒールに当たる 決まる

フリー キック 跳る 壁に当たる もつかい 跳る どつか違つほつ
に飛んでいく

ナイスペス！
2ゴール1アシスト
大会優勝
MVP

狙つたショートはほとんど決まりません。

中学も同じ事の繰り返しでした。

三年の時には全国で2位まで行きました。僕がレギュラーの中では

なのに、

10番でエースは僕でした。1試合で8点とった事もあります。最後らへんはもう田をつむってショート打ってましたよ。

親は分からぬいから僕の事を天才と呼んでます。

将来はプロになると思つてます。だけどな――・・・

「こりや、むりだ！！！僕は今県で1、2を争う実力の学校の誘いを蹴

り、普通の学校に通っています。

普通の高校なら、まあ、みんなと仲良く、楽しくサッカーできるかなーなんて思っちゃって。

僕が入学した事をきっかけにサッカーに力注ぎだしまして・・・

練習は超ハード！！監督はブラジル人（常にグラサン）！！一年なのにキャプテン！！去年県で三位に入っちゃって・・・

結局サッカーを楽しめておりません。。。。

そして今なぜかヤクザさんにからまれて、土下座をしております。
すぐ横には田を真っ赤にし、土下座をしている後輩が・・・

なんでこいつなつた？？

ちよつと思ひ出してみましょかねえ・・・

まず、朝のロードワークに出た僕。

毎朝ちゃんと10キロ走つてます。まあ、筋の口は半分くじー・・・

台風とかは・・休んじゃうね！危ないもんね！！

一応エースだしね！！

5キロ位の時かな、パリーンって聞こえて、朝なのに怖い声が聞こ
えて、

見たら公園横のヤクザさんの事務所の窓が割れてて・・・

んで、後輩やつたんだよね。僕みつけて

先輩！-!って叫びやがったんだよね。そりゃ参つちやうよね。

んで、今土下座しますよ。プラス説教ですよ・・・。

しつけがなつてねえ！-!ってお前に言われたかねえよ。

窓ガラス代100万円！-! どんだけ高ーんだよ。

ガラスで怪我した！治療費100万円… どんだけ高級な保険で
もそんなでねーわ！！

親分も怪我したかも… 治療費… 分かつたよ！100万円
だろ！！

120万！！

お前ちょっと親分高いじゃねえかよ… さすが親分かよ…！

後輩ちょっと笑ってんじゃねえよ…！

そんな時だ、割れた窓ガラスがあいて、角刈りでちょっとワイルド
なアゴ鬚を生やした
パジヤマのおじさんが顔を出した。

「うお…お前まさか相沢昂か！？」

そのあと、色紙にサインをし、何故か朝ごはんと一緒に食べた。
クロワッサンにコーヒー。ゆでたまご。

組長は板東英一のものまねをしてくれた。あんま似てなかつた。
氣を利かせて組員の人たちは笑っていた。
僕は大人つて大変だなと一瞬思った。

どうやら組長は僕のファンだったらしい。高校サッカーが大好きで、
試合も見にきてくれていた。

そんなこんなで今日もなんとか災難を乗り切れた。

結局今日のロードワークは5キロでした。

やだたまめ」・・・

つい

ゆでたまご（後書き）

読んだら感想を教えてください。
これから頑張つて書いていきますので、応援よろしくお願いします。

相沢 鼎

その日、学校では後輩が僕がヤクザさんから助けてくれた勇者として、至る所で喋りまくっていた。

「さすがです！相沢サマー！！！」

また始まりましたよ。女子集団の相沢サマ攻撃。。。

「鼎お前勇気あるよーー！」

相沢サマー！勇気あるよーーって言ひながらも・・・ヤクザに土下座して、ゆでたまご食べただけじゃん。

学校は普通の進学校です。僕が入った事によりサッカーには力を注いでいるが、後はどこにでもあるようなフツーーーの学校です。

野球部は一回戦、三回戦で消える。バスケも同じだ。そして、勉強もそこそこ。

何もなかつた学校だからこそ、「相沢サマ」なのです。

ただ、サッカーがうまいだけじゃ、「相沢サマ」にはなれない。とか、自分の場合はサッカーは

つまらない。・・。

「相沢サマは遠くからでも分かりますわー！」
「当たり前じやない！オーラが違うのよー！」

一
ノ
レ
ト
ル
二
三
四
五
六
七
八
九
十

ただ単に、僕は他人よりも背が少し高い。中学の頃から10センチは伸びたろう。

チあるのでもういいかなと思つてゐる。親に感謝だ！－FWとしては武器になりますから。

そして、「相沢サマ」の理由のもつてつ。すばり「顔」である。

自分でいうのも嫌だが、何故か男前に生まれてきた。関西の感じで
いうと

ショッとしてる。・・です。

ただ、勉強はできない。たぶん脳みそのシワはあまりなく、おそらくテュルンテュルンであろう。

大好きなサッカーのルール・・「オフサイド」にはかなり悩まされましたね。

なんてつたつて、テュルンテュルンですか。

そんな自分でもテストだけはできる。えんぴつは転がしませんよ
!!

オール勘!!!といつやつでいざこます。でも記号問題は大概いけます!!!

そのかわり、国語の漢字、英語のリスニング、歴史の人物・・・

多い時は諦めが肝心です!!そんな時もありますね。

なぜ相沢君はサッカーの有名校にいかなかつたの?と一年の頃は
良く言われた。

だつてへたくそだからね!!とは、言えなかつた。

僕は時々噛む!しかも大事な所で噛む。しかしそれが時々思つてもみないような結果を生む。

なんて言おうかなと思つて。出た言葉は・・

「ちゅかれつから」疲れるから。って言いたかつたのに。

えつ？ちか何？て聞きなおされて・・・噛んだってばれたくなくて、

「近いから」つて答えてしまったわい！！！流川か！！！我ながらかつこいい答えたな！！とんだ嘘つきやわい！！

そんな男としてかつこよくないのに、男からも人気がある。最初は軽く仲間はずれ的な扱いを受けていた。

そりゃそうだ。こんなルックスで女にキャーキャー言われてる男を好きな奴はない。

そんな僕は足が無茶くさい。練習が終わり家で裸足でご飯を食べていると、納豆ご飯を食べていると一瞬錯覚する。あと、犬が僕の足に無茶吠える。

この足は敵だと思われているのかも知れない・・・。

学校でその事がばれる出来事があきた。
僕自身あんまり気にしてはいないので、授業中に寝た時に上履きがはずれていたようだ・・・

オナラ事件が起きた。とみんなは思つたようだ。

僕が起きて上履きを履くと、臭いは一瞬にして収まつた。

犯人は誰だ。

コナンを呼べ。

しかし犯人は寝ていた。・・・迷宮入りである。

この事件は僕が寝るたびに起こっていた。

毎回同じ臭い・・・

犯人は誰だ。

コナンはまだか。

・・・迷宮入りである。

ある時自分が起きている時に上履きが脱げた。
またこの臭いだ。

犯人を搜すのをもうみんな諦めていた。だってコナンはいないのだ
から・・・

しかし前回と違う事が一つだけある。・・・

犯人は起きている。そして事件も起こっている。

隣の女子はこうこう・・・

「相沢君今まで寝てたから嗅いだ事ないよね。このクラス時々この臭いがするのよ」

いやいや、毎日嗅いでいる。家の犬も嗅いでいる。靴下さんはもう耐え切れない！！

ちょっと楽しくなり、履いたり脱いだりを繰り返した。
その度に英語の先生の口が止まる。

それはそうだ。今まで時間は長かったかも知れないが、一回だけ
た臭いの波が
ザブンザブンと津波のように何度も押し寄せるのだ。

先生が耐え切れなく言った。

「誰や！？？」

僕は一人爆笑した。

こうしてこのクラスの不思議な臭い事件は解決した。
人には欠点がある。足が半端なく臭い自分を笑い飛ばしている僕に、
今まで冷たかつた男子たちも、近づいてくれた。
少し女子は離れたが、忘れてきたのかまた「相沢サマ」攻撃が始ま
る。

そんな時は、自分から秘密の花園を開放するのだ。

こうして僕は楽しい学校生活を送っている。

敬語口調はめんどくさくなつてしまつたので、やむをえひでござ
ました。

あと、そろそろサッカーにふれていかなあやう思つて、
今回はこれにて終了したいと願ひ。

次回からはサッカーしよー！

つづく

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3152m/>

うらはらの星

2010年10月11日01時11分発行